

東桂小だより

学校教育具体目標

- ① 進んで学ぶ子ども
- ② 思いやりのある子ども
- ③ 健康でたくましい子ども

9号 令和2年 1月20日 発行責任者：校長 志村雅巳

一月は往ぬる，二月は逃げる，三月は去る！

神社や諸団体における拝賀式から始まり，道祖神祭・成人式等，正月から三月までは行事も多く，あっという間に過ぎてしまうため昔から「一月は往ぬる，二月は逃げる，三月は去る。」と言われていいます。学校では，三学期の授業日数は50日で，1月を過ぎてしまえば35日だけとなり，1年間のまとめと反省を行うとともに，次年度への新たな方向性を打ち出していくところです。学校経営に反映させていくため，地域や保護者の皆様からも幅広くご意見を頂ければと思います。よろしくお願い致します。



1月：丹波山村（お松引き）

1/10(月)に始業式を行い，校長の話として①自分を見つめ，しっかり1年間の反省をする。②「有終の美を飾ろう！」と二つのことを話しました。その中で，水泳の池江璃花子選手のことについてふれました。ご存じの通り，池江選手は今年の東京オリンピックでの活躍も期待されていたトップアスリートですが，昨年2月に白血病を患い，10ヶ月という闘病生活を強いられました。ようやく12月に退院し，今後に向けてコメントを発表したのです。



「オリンピックについてですが，2024年のパリ（フランス）オリンピックを目指していきたい！」というものでした。私は大変感動しました。何かを成し遂げている。または成し遂げようとしている多くの人がそうであると思いますが，妄想や夢だけで終わらせないためには，今，人より優れているとか優れていないとかが重要なのではなく，自分の立ち位置を見つめ・力を分析把握することが重要なのだと思っています。その上でしっかりとした目標を定めていきたいものです。

人は千差万別で，周囲には理解できない苦難を抱えている人もたくさんいます。それをどのように支えていけるのかが現代社会の課題にもなっています。子ども達も同様で，日々一生懸命に生活しています。私たち周囲の大人が陰ながら支え合い，それぞれの子ども達の力を伸ばせるよう努力していきたいと思います。ご協力をお願い致します。

なお，4月に実施されました全国学力・学習状況調査の結果（都留市）が届きました。これに伴い，本校での分析と今後の取組について裏面に掲載しましたのでご一読ください。

3学期 あたりまえ3箇条 開始！

3学期も，あたりまえ3箇条に取り組みます。ご家庭でもご協力をお願いします。

1条 よく聞いて・考え挑戦・伝えよう（知）

自分の考えをたくさん人に伝えたり教え合ったりする。（3学期）



2条 気持ち良い、あいさつ・返事・ことばづかい（徳）

相手を思いやることばづかいをする。（3学期）



はい



3条 よく食べて・たくさん遊び・働こう（体）

率先して働き、心身ともに鍛える。（3学期）



平成 31 年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査は、全国の国・公・私立学校の小学校 6 学年と中学校 3 学年を対象として 4 月 18 日に実施された。小学校における調査の内容は、教科に関する調査（国語・算数）と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査である。教科に関する調査では、(1) 実生活において必要で、活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、(2) 知識・技能等を活用する力や課題解決のための構想を立て・実践し・評価・改善する力等に関わる内容が一体的に問われている。また、児童・生徒質問紙調査では、調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する調査となっている。この調査結果を受け、本校における学力学習状況調査の分析と今後の取組について以下に示す。

1. 本校における平成 31 年度（令和元年度）学力・学習状況調査結果の分析

国語の全体の平均正答率は、「全国・県」と比べやや高く、学習指導要領の領域等や評価の観点、問題形式の「選択式」「短答式」「記述式」の全てにおいて「全国・県」を上回っている。しかし、設問によっては「全国・県」を上回っているものの正答率が高くないものも含まれており今後の課題でもある。

算数については、設問毎にみると 14 問中 9 問が「全国・県」に比べ正答率は上回っており、中には 5 ポイント以上高いものもあるが、全体の平均正答率は、「本校・全国・県」のいずれも 60 ポイント台で有意差は見られない。逆に 14 問中 5 問が「全国・県」に比べ正答率は下回っているが、その差は僅かで その殆どにおいて有意差はない。

児童質問紙については、「教科調査」に対応する分類では、国語・算数ともに実際の生活の中で活用できないか考えることについて、やや低い傾向であるが「関心」「規範意識」「学習習慣」については全国・県と同等である。

読書に関心のある児童は多く、また家庭学習の習慣が定着している児童も多い。一方で、学校の出来事について家の人と話す機会や地域・社会についての関心や参加についてはやや低い傾向にある。

2. 今後の取組について

国語の分析結果から、自分の考えの根拠を説明したり、相手の根拠を明確にするために質問したりできるように指導する必要がある。愛郷タイム等の中で、家庭学習を振り返る学習や作文・スピーチ等に取り組み、また、学習のまとめの時期には、通常の学習の中で過去に学習したことの振り返りを重視していく。

数学の分析結果から、自分の考えをノートにまとめ、楽しく他の人と意見を交流する中で考えを確かなものにしていくことを継続する。また、日常生活の場面と対比しながら基準量・比較量・割合の関係を図や言葉などに表し、数量の関係を的確に捉えるよう工夫していく。

質問紙の分析結果から、今後も継続的に多様な学習課題やヒントを与えて、豊かで楽しい家庭学習が自主的に進められるよう取り組むとともに、自分の考えを話したり書いたりする活動や、自分で課題を立て情報を集め整理し調べる活動を実施していく。また、各教科の学習の中で地域社会のことを知る機会を大切にしながら考えを深めたり、広げたりするための話し合い活動に取り組むとともに学んだことを普段の生活の中で活用する力をつけられるよう工夫していく。